

令和2年度 第2回学校評議員会報告

I 日 時 令和3年2月24日（水）10:30~12:20

II 場 所 会議室

III 出席者 学校評議員 A評議員（学識経験者） 欠席
B評議員（関係機関代表）
C評議員（地域行政区代表）
D評議員（本校教育後援会長）
E評議員（PTA会長）
学校職員 校長、副校長、小学部主事、中学部主事・教務主任、
高等部主事・校内教頭、指導部長、研究主任

IV 内 容

1 開 会

2 校長挨拶

今年度は新型コロナウイルス対応について、日々手探りの状態で学校生活を進めてきた。児童生徒はいつもと違う状況の中ではあるが頑張って一年間の学習を行った。本日は一年間の報告をさせていただくので、評議員の皆様からアドバイスをいただきながら、より良い学校を目指していきたい。

3 報告及び協議

【報 告】

(1) 各学部の様子について

- ①小学部
- ②中学部
- ③高等部

・スクリーンに学習の様子の写真を映しながら説明。

[協議]

E評議員：高等部では作業製品のワゴン販売の案内を東安庭地区にポスティングしたという報告があった。何件くらいにポスティングしたのか。

高等部主事：各班50枚くらいずつ持って行ったので、3班で150枚ほど。回覧板にもちらしを挟んでもらって周知した。

E評議員：そのうちどのくらい反応があったか。

高等部主事：購入していった方が3~4名あった。

(2) 高等部進路状況について

・資料に沿って説明。

(3) 令和3年度入学者選考結果について

・資料に沿って説明。

(4) 令和2年度学校評価アンケート結果について

- ・資料に沿って説明。

[協議]

D評議員：先程見学した授業で、高等部の生徒が作業学習のまとめをしていた。生徒自身が行っているのが良いと思った。また、キャリアパスポートの取組も良いと感じる。新しく入ってきた子については入学後にできるのか。

副校長：小学校、中学校、高等学校では今年度から取り組んでいるものである。本校は来年度から取り組めればと考えている。

D評議員：保護者も見ることが出来るものか。

副校長：学習の節目などで家庭にお返しして目を通してもらうこともできると考える。

D評議員：進路を考える際にも役立つものだと感じる。

(5) 令和2年度いじめアンケートについて

- ・資料に沿って説明。
- ・いじめと認定した件数は、一昨年度18件、昨年度10件、今年度5件と減少している。児童生徒間で相互の理解が進んできていることでトラブルが減ってきているのも要因の一つとして考えられる。

[協議]

D評議員：興奮したり、落ち着かなくなったりした子が、静かにできる場所などに避難したような例はあるか。

指導部長：クールダウンできる部屋へ移動して気持ちを落ち着かせることがある。また、日常的に一人で使用できる部屋を設けて対応しているケースもある。

C評議員：興奮や落ち着かないなどは、本人にとってはストレスを解消する方法であるという見方もできるため、ある程度の許容も必要だと考える。教員は児童生徒の行動を認めつつも方向性を示すことが良いのではないかと考える。また、今日の授業を見て、児童生徒は落ち着いてきていて、教員との関係性も良好だと感じた。

指導部長：適切なストレスへの対処の仕方について個々に応じて具体的に提示していきたい。社会通念上してはいけないこともあるので、その子の理解度に合わせながら場面を捉えて指導していきたい。また、指導の方法については教員間で共有しながら進めていきたい。

C評議員：子どもに対する教員の見方が共有されていることが望ましい。正しく共有できているかを確認するためにも教員間で意見交換が大事である。

(6) 令和3年度学校行事について

- ・資料に沿って説明。
- ・「学校評議員会②」を2月22日（火）に訂正。

(7) 研究活動について

- ・資料に沿って説明。

(8) その他

- ・特になし。

【評議員の皆様からの提言】

B評議員： コロナ禍の中であるが高等部3年生全員の進路が決まりそうだということで良かった。一般就労の生徒もいるが、今後大変さが出てくることも考えられるのでフォローをお願いしたい。

学校評価アンケートの教職員自由記述の中に、「個別の教育支援計画の活用ができていない」という意見があった。計画相談を行っている事業所との情報共有という意味でも活用できるものにしてほしい。計画は「総合計画」とも呼ばれ、学校や家庭での様子も含めて検討する必要があるため、事業所との連携を図ってほしい。

C評議員： 特になし。

D評議員： 授業見学を行い、研究活動の報告を聞いたが、研究と実践の結び付きを感じた。例えば体育では、体を動かすことのほかに考える要素が含まれていた。「生きる力」を育むための教育が見えた。

しっかりとコロナ対策を行っていること、安全への配慮をしていることが感じられた。また、児童生徒は我慢しなければならないことも多いが、その中でも楽しく過ごしていることが分かった。

E評議員： 四校園のPTA会長・副会長との話し合いの中では、(PTA活動の)中止一辺倒ではなく、できることがあるのではないかとという方針で活動を進めてきた。

登校や送迎のときに、学校の職員から、または放課後デイの職員から、子どもの様子を伝えてもらっている。保護者としてありがたいことである。キャリアパスポートの取組も始まるということで安心している。

学校、デイサービス、保護者が関わり合っていくことが大切であると考えている。

A評議員：(欠席のため、事前にいただいたコメントを代読)

学校評価の数値の変化も大事だが、それ以上に自由記述は具体的な実態を反映した課題や評価が表されていると思われるため、記述に対する方向性についても触れてもらいたい。

いじめに関するアンケートで「加害者の名前を公表してはどうか」という意見があった。アンケート結果からは「加害者－被害者」の視点から検討する事案ではないと思われる。そのような枠組みで子どもたちの行動を見ることは適切ではないと思われる。場合によってはこのことについての啓発も大事になってくるのではないかと。

ホームページを見たところ、教育活動の様子がよく分かった。コロナ対策により、環境がより分かりやすく構造化されたり、学校での生活リズムも分かりやすくなったりして、落ち着いた学習に取り組めた面もあったのではないかと。今後とも状況に応じた教育の工夫が求められる。

4 その他

E評議員： 先日行われた東北地区会長会において、このコロナ禍の中で、全国の附属学校PTA会員のうち、約6%の家庭で生活保護を受けているという報告があったと聞いている。今後の対応についての話などは出ているのか。

副校長： 今のところない。今後、他の校園と情報交換をして、他の附属校園の状況を把握することから進めていきたい。

5 閉会